

かゑらじと かねて思へハ 梓弓

なき数に入る 名をぞとどむる

四條畷に散った若き武将、楠正行

楠正行通信 第148号

令和4年7月12日

発行＝四條畷楠正行の会

〒575-0021 四條畷市南野5丁目2番16号

四條畷市立教育文化センター内 072-878-0020

公開講座第9回「現代の正行」

四條畷可視化戦略で、正行、現代に蘇る

宝塚「桜嵐記」で、新しい女性ファン層が生まれる！

● 正行シンポジウム、今も継続開催中 ●

平成24年4月、四條畷市の産業振興アドバイザーに就任した扇谷は、26人の若手職員とともに、観光行政推進の基本政策となる四條畷観光可視化戦略を策定し、基本構想の柱の一つとして、「郷土、四條畷に対する意識の啓発を図る取り組み」を位置付け、第1回楠正行シンポジウムを開催したことが、楠正行が現代の四條畷市で蘇る第一歩になったと思います。

平成25年3月に開催した第1回楠正行シンポジウムは、当時、正行を正面から取り上げたシンポジウムや勉強会がなかったこともあり、広く、西日本各地から申し込みが殺到し、四條畷神社会館を超過員にしての開催となりました。パネラーには、正行ゆかりの地から、四條畷神社寺井宮司、観心寺永島住職、如意輪寺加島住職、建水分神社岡山禰宜、島本町ふるさと案内ボランティアの田野田会長をお招きし、正行を熱く語っていただきました。（職名はすべて当時）また、会場からもパネラーを困らせる鋭い質問が出るなど、大いに盛り上がりました。

また、観光可視化戦略に盛り込んだ企画を次々と進める中で、楠正行と四條畷の戦いを盛り込んだ副読本を制作したことも、四條畷の子ども達に正行を教え、四條畷神社や正行に対する理解が深まる大きな一歩になったと思います。

楠正行シンポジウムは、第6回までは四條畷市主催でしたが、第7回以降は四條畷楠正行の会が継承し、主催事業として実施しています。第7回は、如意輪寺の加島裕和副住職と扇谷の対談を企画し、如意輪寺による143名の過去帳再現プロジェクトを発表し、昨年7月の第8

回では、1部、楠正行に関する研究論文募集事業の入賞者を表彰し、入賞論文等掲載したブックレット『小楠公』第1号（頒価500円）を発行するとともに、2部、絵本作家の谷口智則さんによるライブペインティング「くすのきまさつら」を実施、完成した絵は市民総合センターに掲示しました。

● 教育文化センターが正行の発信基地 ●

現在、四條畷市では、教育文化センターが楠正行情報の発信基地となっています。

発端は、産業振興アドバイザーを退任した後、扇谷と教育文化センターによるコラボ企画を仕掛けたことで、平成26年6月から4回シリーズの市民教養講座「楠正行の人間像に迫る！」は、20名の定員に40名が集まるという大盛況での開催となりました。

この市民教養講座に集った受講生の中から、「もっと、正行の事が知りたい」「正行をもっと学びたい」の声上がり、平成26年11月、8名でスタートしたのが四條畷楠正行の会です。

正行の史料は極めて少なく、人物像をあぶりだし、学ぶにはテキストもなかったことから、毎月の例会では、正行が生きた時代や亡くなった後の時代に、正行とゆかりの歴史上の人物を一人づつ取り上げて、正行を取り巻く社会や人物を検証する中で、人間正行を繙くスタイルで、現在まで続けています。因みに、当初からの例会テーマは、後醍醐天皇、後村上天皇、北畠親房、四条隆資、護良親王、龍覚坊、朱舜水、黙庵禅師、足利尊氏、細川顕氏 etc といった具合です。

市民教養講座の中で、外に出て学びたいとの声が多かったことから、平成27年6月には第1回バスツアー「正行ゆかりの地を訪ねる」を実施しましたが、申し込みの受付日に定員がオーバーするという人気ぶりで、且つツアー当日の集合時刻前に参加者が揃い、余裕をもって早めにバスを出発させるという充実したものでした。

この年は、建水分神社・観心寺、如意輪寺、賀名生旧皇居・隅田城址、小楠公義戦の跡碑・四條畷神社・小楠公墓、桜井駅跡・宝篋院・正行寺と回りました。翌年の第2弾では、湊川神社、笠置寺、金剛寺、千早城址、如意輪寺を訪ね、さらにその翌年の第3弾は、楠妣庵観音寺・葛井寺、四天王寺・住吉大社、朝護孫子寺・光雲寺、延暦寺・下賀茂神社、天龍寺・等持院・東寺を訪ねました。

3年連続、計15回のバスツアーでしたが、毎回キャンセル待ちの方にもご参加いただき乗車定員いっぱいとなり、市のマイクロバスの運転手・井上さんから「このバスツアーは、ハンドルが重いです。」と、嬉しい悲鳴を聞きました。

このような経過を踏まえ、平成29年4月には、教育文化センターに「楠正行資料室」が設置され、私たちの会提供の例会資料や市民教養講座の講演集、創刊号以来の楠正行通信、楠氏関係図書等、充実した内容となっています。

現在は、この資料室正面に、黒岩淡哉作の「小楠公像」も展示しています。この小楠公像は、個人の方から私たちの会に寄贈を受けたもので、JR四條畷駅に展示されている小楠公像と同じもので、飯盛山山頂の小楠公像の6分の1の大きさです。

● 電通大とのコラボ、多くの成果生む ●

現代の正行を語るうえで、私たちの会と大阪電気通信大学情報学部・木子香教室とのコラボも多くの成果を生みました。

このコラボは、大阪電気通信大学の社会プロジェクト実習授業の一環で、3回生の学生が、クライアントの私たちの会のオーダーを受け、1年かけて学び、成果品をつくるものです。

平成29年度に第1回目のコラボが始まり、すべて楠正行がらみの「絵本」「かるた」「ポスター」「ゲーム」の制作を続けてきました。

絵本は6分冊1巻本で、「学び」「友」「大志」「恋」「情け」「戦い」をテーマに、子どもたちが読むことで、おぼろげなく正行が理解できる仕掛けとなっています。現在、四條畷市二つの図書館で閲覧いただけます。

かるたは、「絵札」「字札」「しおり」「地図」「箱」からなり、正行の生涯とゆかりの地を織り込んだもので、かるた遊びをしながら、自然と正行の事が学べるようになっています。このかるたは、現在、教育文化センターはもちろんこと、市内書店や湊川神社、如意輪寺等で販売しています。頒価は1500円です。

「楠公さんNHK大河ドラマ」誘致活動!には、官からは66自治体(令和3年5月現在)が参加して協議会を組織、民からは観心寺、如意輪寺、湊川神社、四條畷楠正行の会など26団体(平成30年11月5日現在)が参加して楠公ツアーリズム推進協議会を組織し、NHKへの陳情活動を続けています。

コロナ禍の影響を受けて活動は自粛していますが、今後、コロナの収束を見据え、再び積極的な活動を再開の予定です。応援、よろしくお願ひします。

● 桜嵐記、新しいファン層発掘! ●

現代の正行を語るうえで、特筆的な出来事として、令和3年7月、宝塚歌劇による「桜嵐記」の公演がありました。

宝塚月組トップ(当時)の珠城りょう扮する楠正行と弁の内侍との恋物語を取り上げたものでしたが、正行に新たな女性層ファンが生まれるという大サプライズでした。

上田久美子さんの作で、内容も充実したもので、正行研

究をする私の立場からもまったく違和感のない、素晴らしい作品でした。

宝塚の桜嵐記は、今までになかった正行ファンを生み、公演前後から四條畷神社や小楠公墓所、湊川神社を訪れる宝塚歌劇関係者や女性ファンが後を絶たず、今までになかった視点からの問題提起や質問、感想が多く聞かれました。

扇谷は、公演に先立つ5月25日放映のCS放送「プレステージ」に出演し、スタジオの鳳月杏(正時役)と輝月ゆうま(正成役)の二人のタカラジェンヌと対談する形で、ロケ地(桜井駅跡・渡辺橋・竹内峠)から解説させていただきました。

(文責:四條畷楠正行の会代表 扇谷昭)

